

# MOI MÊME

「モアメイム」とはフランス語で自分自身の意味です。

第27号

2026年3月



## C O N T E N T S

- 男女共同参画週間事業講演会  
「落語とジェンダー～私らしく生活したらええやん～」…………… 1～2
- 子どもを守るために、今必要な「性の学び」と家庭でできる関わり…………… 3
- 子育てに奮闘するお父さんたち、語りあってみませんか…………… 4
- 男女共生フロア・ウィル「ウィル・ミニフェスタ」を開催…………… 5
- 11月12日～25日は「女性に対する暴力をなくす運動」期間です  
ウィル図書コーナーから…………… 6

## 男女共同参画週間事業講演会

# 桂二葉さんの落語とトーク 「落語とジェンダー～私らしく 生きてらええやん～」



落語家 桂 二葉 さん

令和7年(2025年)6月3日

男女共同参画週間事業として落語家の桂二葉さんと作家のアルテイシアさんによるジェンダーをテーマにしたトークショーを行いました。

### 男女の行動に対する社会的イメージの違い

(桂二葉さん、以下二葉) 女の人って、あほなこと言ったりしたりするのが痛々しく見られるときがあるじゃないですか。

(アルテイシアさん、以下アル) 女性芸人と男性芸人でもやっぱり全然違いますよね。

(二葉) はい。男性芸人はあほなことできてすごいとなるけど、女性芸人はちょっと“イタイ”というか“かわいそう”みたいになる。子どもの頃からそれは感じていて、女の子は廊下を走り回ったりすると「何かこいつイタイな。」と思われるけど、男の子が走っていたら人気者みたい。あれやっぱり不思議ですよ。

(アル) やっぱり女の子はおしとやかに、男の子は元気よく男らしくってやつですよ。男の子が騒いでいたら、元気で男らしく見られるのに、女の子が同じことをすると元気過ぎるといふかやんちゃ過ぎるといわれる。力が強いのも、男の子ならさすがと言われるけど、女の子だと「怪力女」なんて言われてしまいますよね。



### 幼少期のエピソード

(アル) ジェンダーバイアスって言われますけど、男らしさとか女らしさって押しつけることなんですよ。男はこうだとか女はこうだとか、男のくせとか女のくせによって型を当てはめられるみたいなのが嫌だったとかありますか。

(二葉) そうですね。嫌でした。はまったことないけれ

ど。自分の体験として、小学校低学年の時に弟がものすごく泣いていて、「男のくせに泣くなよ。」って言ったから、母親から「男でも泣くし、女でも泣くやろ。」と言われて、ものすごく恥ずかしくて情けない気持ちになったんですよ。めっちゃ普通のこと言うてはって、当たり前のことを言うてするのに何で分からなかったんやろうなと思って、それがずっとあります。

(アル) お母様は家に図書室をつくるぐらい本が好きで既成概念にとられることを嫌う人だったんですよ。そういうお母様に育てられたから多分すごい反省できたというか。それぐらいのご年齢で男も女も泣くやろとか言ってくれるお母様がすごい素敵だなと思いました。

### 男性の生き辛さ

(アル) 男のくせに泣くなとかめそめそするな、別にそんな大げさに言わなくてもと思われるかもしれないけど、やっぱりこの問題はすごく根深い。例えば、そうやって泣くなとか言われると男の子はそういう感情を隠すようになってしまう。悲しいとか寂しいとか怖いとか恥ずかしいとか、そういういわゆる女々しいといわれるような気持ちを言葉にできなくなっちゃう。そうなるといわゆる暴力とかに繋がったりして良くない。

(二葉) 確かにずっと怒っているおっちゃんとかいらっっしゃいますよね。

(アル) 例えば電車の遅れにすごく怒ってるおじさんも、本当は遅れたらどうしようという不安や焦りがある。怒りって二次感情と言われていて、実際にその下に本当の感情があるから、遅れそうで不安やという本当の自分の感情に気づいて、それを言葉にできる小さい頃からの訓練が大事なんですよ。人に言って「それ不安だよ。」って言われたら怒らずに済むので。男性は女性の2倍も自死率が高いというデータもあって、なぜかと言うと、人に悩みを話すのに抵抗があるという男性が女性よりずっと多いから、そりゃ苦しくなるよねって思います。

## 落語界で感じること

(アル) 二葉さん自身が落語界の中で感じること、落語の話の中でもいいし、やっぱり自分がそこで仕事をする中で感じる性差別であったりジェンダーだったりどうですか。

(二葉) 落語界でも女性が増えてきているので、だいぶ和らいできているとは思いますが。私が入った頃とかは「ちゃんと前かけつける。」とか「セクハラされて当たり前やと思って入ってきてんな。」とか平気で言うてくる人もいた。結構そうやって何かこの芸の世界のあるあるかもしれないですけど、女遊びはかっこいいというふうに思っている人が多いです。そんなんで落語うまくなれへんけどねえ。なんか「芸人やからええやろ。」みたいに思っている60歳以上の人がめっちゃくちゃ多いですね。だからそういう人に対してどういうふうに言ったらいいか、悩みます。そういう人って分からはらへんから。同世代やったら言いやすいですけどね。嫌な気持ちにさせているよということが何でなかなか分からんのかなって思うんですよ。

(アル) セクハラとか嫌なことを言われたときに、直接言いにくいなら「心配してるふり」をしてやんわり伝える方法もある。例えば「それセクハラって言われますよ。大丈夫ですか？」みたいな。本当は言いたいんだけど、上司とかで言い辛かったらそういうふうに言ってみる。でも男性って自分より上の人からじゃないと絶対聞かない人はいるので、やっぱりもっと偉い上の人から注意してもらおうというふうにする方法もある。

(二葉) 我慢が美学やみたいな。そういうの割と女性にもありますよね。自分が苦しんできたのをそのままわかれみたいな。それってええのかなって思うんですけどね。

(アル) 例えば部活で自分がしごきとか体罰とか受けた人って2つに分かれますよね。後輩には同じことを味わわせたくないと思う人と、俺たちだってひどい目にあったんだからおまえたちもしごかれて当然だって思う人がいる。普通、後輩たちのためにできることをしたいと思うけれど、そうじゃない人もいっぱいいるってことですよ。

(二葉) そうですね。理不尽なことと戦おうと思ってやってるんですけど、1人で戦うのは大変なので、何かもう



ちょっと仲間を増やさんととか思うけど、少ないからね。頑張らないとあかんって思ってる。

(アル) 落語界でもアウトな下ネタを言う人がまだいますよね。例えば美人のペットボトルを舐めたとか、そういう性暴力を下ネタみたいに扱う人ってやっぱりすごい古いし、全然笑えない。ただ、そういう話を喜んで笑う年配の人もいる。

(二葉) ありますね。とにかく気持ち悪い小話ばかり振る師匠とか。師匠クラスの人だと言にくいから、みんな我慢してるけど、お客さんもドン引きしてます。あと、女性の師匠が若い男の子をからかって周りが面白がってるということがあります。

(アル) それはちゃんと名前があって、女王蜂(クイーンビー)症候群というんですけどね。女性がものすごい男社会の中で生き延びるためには自分がおっさんになるか、おっさんにとって都合のいい女になるかしかないというので、男らしさの象徴みたいな内面になっちゃうと思うんですけど、その女王蜂みたいな人っていうのは、後輩の女性に対して厳しいんですよ。例えば後輩がセクハラにあったとなっても、「そんなことで騒ぐなんてプロじゃないわ。」みたいなことがね。

(二葉) ほんまそうなんですよ。すごい見てはったかのように。落語界って、昔ながらの権力構造が残ってて、変なセクハラが当たり前みたいにされてることがいまだにある。だいぶ減ってきたと思いますけど、めっちゃ上のお師匠さんから楽屋で「耳舐めさせろ。」って言われて断ったら、周りは見て見ぬふりで助けてくれなかったことがあった。更に、そこにいはった1人の先輩に後日「何でお前あとき耳舐めさせへんかってん。」って責められた。だから「おかしいこと言ってるで、そんな誰が言ってもあかんことや。」って言うたんです。こっちが反撃したんでびびってはりましたけどね。

(アル) そういうことが昭和の時代の話じゃなく、今も続いているのが問題。だからこそ、落語界も「昔の伝統だから。」で済ませず、人権問題としてきちんと変えていかなければいけない。みんなで力を合わせて変えていきたいですね。

### 桂 二葉/落語家

大阪府生まれ。男性中心の落語界において、「女性が古典落語を演じるのは難しい。」という定説を覆し、2021年NHK新人落語大賞を受賞し、その実力と快活なキャラクターで活躍中。

### アルティシア/作家

神戸生まれ。ジェンダー、フェミニズム、家族問題などについて執筆。講演や授業も多数行う。

# 子どもを守るために、今必要な 「性の学び」と家庭でできる関わり

一般社団法人 ココツリー 田中 まゆさん



## 性教育って学校でどこまでやってくれるの？

現状、日本の学校教育は、文部科学省が定める学習指導要領をベースに進んでいきます。その中には、「人の受精に至る過程は取り扱わないものとする」など教える内容を制限する文言、俗にいう“歯止め規定”が明記されています。そのため、どの学校でも同じ知識を学べるとは限りません。そもそも本来、性教育は生殖に関する知識を知るか知らないかということだけではありません。あらゆる関係性の中で同意の大切さや、行動の選択、相談先など、子ども達が実生活で直面し必要となる知識や情報は多岐にわたります。そんな中、興味を煽る性の情報は容易に手に入る情報社会でもあり、学校で学ぶ内容と現実とではますますギャップが広がっていると痛感しています。

## “やりづらさ”を“やりやすく”変えるヒント

保護者からよく聞かぬのが、「性教育は大切だと思うが、何からどう話せばいいのか分からない」という声です。この“やりづらさ”は、実に多くの大人が感じています。性教育を“やりづらい”と感じる原因は、性教育＝生殖を教える、というイメージだと思います。その認識で性教育を考えると、いつ教えよう？まだ早い？教えない方がいい？となってしまいます。しかし、知識を教えた先の「人権」や「人間関係」を扱うことが性教育の主軸だと考えると、少しやりやすくなるのではないのでしょうか。「性行為」ひとつとっても、生殖だけではなく、コミュニケーションの側面もあり、時には暴力や犯罪にもなりうる。だからこそ、自分の意見をまっすぐ伝えられる対等な関係かどうかや、相手の同意を確認することが重要になります。知識を与えるだけで終わらせず、「人権」や「人間関係」に目を向けることで格段に話しやすく、また子どもを守るためのメッセージに繋がります。

## 性教育の根底にあるもの

性教育で教えることは、「私のからだは私のもの」というシンプルな考え方です。「嫌なことは断ってよい」「相手が嫌そうな時ははっきり同意を取れていないことはやめる」「困ったら相談していい」—こうした人との関わり方は、友達関係、ネット上の対話、未来のパートナーシップなど、あらゆる場面で役立ちます。そしてこの「私のからだは私のもの」というのは、大人自身も当てはまります。性教育をするからといって、大人側の経験やプライベートな内容まで大っぴらにする必要はないですし、子どもの要求に全て応えなければならないわけではありません。むしろ大人が率先して、自分の体を守ったり、プライバシーを守ったりする態度をとることも、子どもにとって良い学びになります。大人も子ども一人ひとりが大切な存在だという理解と実感があるからこそ、自分も相手も尊重できることに繋がるのです。

## 家庭の中でできること

身近な大人としてまずできることは、「子どもを一人の人間として尊重する」ことです。日常の中で、子ども自身に関することは子どもに確認したり、声をかけたりした上で行動にうつすこと。これだけでも、自分の存在が大切に尊重されるべきだと実感できます。子どもの体や意見を尊重し、性の話題をタブー視せずに向き合うことで、子どもにとって「話してもいい」「助けを求めている」「環境を作ることに繋がります。特に近年増えているのが、SNSやオンラインゲームなどを通じて起こるトラブルです。ネット上のメッセージ、画像や動画の送受信、誘い込み—子どもたちは大人が思う以上にリスクにさらされています。そんな中で、自分の体や意見が大切に扱われている“当たり前”があることで、危険を察知できる力にもなります。性教育が目指すものは、常に何でもオープンに語る関係ではなく、必要な時に相談できる関係です。性教育をやるのは学校か家庭か、ということではなく、家庭、学校、地域も含めて、子どもたちの未来を支えていくことが大切だと思っています。

# 子育てに奮闘するお父さんたち、語りあってみませんか

京都橘大学准教授 濱田 智崇さん



2025年11月22日に開催された「学んで、語って、パパのためのこころ育て講座」では、私がこれまで男性相談に関わってきた経験から、男性が抱えやすい悩みや、父親として子どもと向き合うときに大切にしたい視点についてお話ししました。後半は、私を含む子育て中の男性臨床心理士3名で活動している「チーム・パパカフェ」がファシリテーターとなり、ご参加のパパたちと一緒に語り合う「パパカフェ」を行いました。

## 男性の“かくあるべし”

私は1995年に『男』 悩みのホットラインという、日本初の男性が男性の悩みを聴く窓口を開設しました。当時は「男性が相談するのか」という声もありましたが、実際には電話はこの30年間鳴り続け、男性が本当は語りたい思いを抱えていることがよくわかりました。男性はこれまで「強くあるべき」「弱音を吐くべきではない」などと言って育てられてきました。こうした男性の“かくあるべし”は、男性自身を縛り、人間関係にも影響します。夫婦のすれ違いや、職場でのハラスメントなど、日常の中にその影響は表れています。

## 父親が語る意味

講座では、父親の子育て意識に関する調査結果も紹介しました。多くの父親が「母親にはかなわない」と感じている一方で、「父親もなくてはならない存在」と考えていること。さらに、母親は「子育てについてほぼ毎日話しているつもり」でも、父親側はそう感じていないという“認識のずれ”も見えてきました。このずれは、父親が子育てについて誰かと語る機会が圧倒的に少ないこととも関係しています。しかし実際に、父親同士で話してみると「話してよかった」と感じる方が多いのです。自分の思いを言葉にすることで、父親としての実感が育ち、子どもとの関わりにも前向きな変化が生まれます。

後半の「パパカフェ」では、まさにその“語ること”の力が発揮されました。最初は緊張していた参加者も、話し始めると「うちも同じです」「それ、わかります」と笑いが起き、会場には安心した空気が広がりました。

利害関係のない横のつながりは、父親にとって貴重な“こころのセーフティネット”になります。特に何か具

体的な悩みの解決策が示されることはなくても、同じような境遇の人と語り、つながることそのものに心理的な意味があるのです。

## 男性にとっての子育て

私は、父親が子育てに関わることには、父親自身の人間的成長にも大きな意味があると考えています。子育ては思い通りにならないことの連続で、曖昧さや混沌に向き合う作業でもあります。これは、理屈や効率を重んじがちな男性にとって、新しい学びの機会になるからです。「子育ては、父親自身のこころ育て」というのは私自身の実感でもあります。娘が幼い頃、あえて完全に子どものペースに任せてみたところ、公園へ向けて出発するまでの準備に3時間以上かかったことがありました。子どもを思い通りにしようとせず、ただ見守ることの難しさと面白さを教えてくれた出来事です。

また、子育てには、一般的に強調されがちな「母性」だけでなく、「父性」が必要になることもあります。前者は、すべてのものを包み込み育む力ですが、行き過ぎると子どもの自立を妨げる危険性もあるのです。後者は母子の密着を切り離し、子どもの自立を促す力です。現代は、「お母さんが母性、お父さんが父性」という縛りにとらわれず、シングルの親御さんも含め、これら両方の力のバランスを少し意識しながら、お子さんに関わるのがよいかも知れません。

今回の講座やパパカフェが、参加された皆さんにとって、自分の子育てを振り返り、誰かと語り合うきっかけになっていれば嬉しく思います。これからも、父親が子育てに関わりやすい環境づくりに、私自身も関わっていきたくて考えています。



# 男女共生フロア・ウィル 「ウィル・ミニフェスタ」を開催

男女共生フロア・ウィルには市とともに取り組みを進めるパートナーとして、現在8団体が登録されています。

今回は登録団体と市が協働で実施した「ウィル・ミニフェスタ」をご紹介します。

1月31日（土）に市民講座と登録団体による体験会を実施。また、1月26日（月）から2月6日（金）まで登録団体の活動展示を実施しました。

## 市民講座



## 参加団体

エッセイサークル文文、五行歌ひらかた歌会、五常小保健人権部会、「こどもと本」香里ヶ丘市民学級、新日本婦人の会 枚方支部、図書館フレンズ・ひらかた、墨雅の会

## 「こころとからだのフィットネス」 ～ジェンダーの視点でフィットネスを考えよう～

### 講演&リフレッシュ体操

講師に大森 暁さん(任意団体 Ninaru主宰)をお迎えし、簡単にできるストレッチ体操などを体験しました。



## 体験コーナー

工作、折紙、五行歌づくり、絵本読み聞かせ、妊婦体験、赤ちゃん人形抱っこ体験など、たくさんの方に参加いただきました。



## 展示コーナー

それぞれの活動の様子を展示やDVDで紹介しました。

ステーションヒル枚方に移転して初めて登録団体とともに「ウィル・ミニフェスタ」を開催しました。登録団体の活動や取り組みを知ってもらう機会となり、たくさんの市民の方にお越しいただき盛大に盛り上がりました！

# 11月12日～25日は 「女性に対する暴力をなくす運動」期間です

男女共生フロア・ウィル内活動スペースにて「女性に対する暴力をなくす運動」に関する展示を行い、ポスターの掲示、関連図書の紹介、DVDを上映しました。



## <展示以外の取り組み>

- ・平和の鐘「カリヨン（ヒラリヨン）」をパープルライトアップ
- ・講座「これってDV?どこからDV?～DV加害者プログラムの取組を含めて～」を開催
- ・京阪電車の枚方市駅中央改札口の駅デジタルサイネージで啓発



## ウィル図書 コーナーから

肩の力を抜いて気楽に生きてみませんか



くじけそうになったとき、人生の先輩20人がそっと背中を押してくれるエール集です。  
IKKO、ジェーン・スー、平野レミ、藤原美智子、中園ミホ、蛭川実花など

『一歩が踏み出せなかった私へ』  
日経Woman/編



センセーショナルなタイトルにはワケがある!『良妻』の対義語は『悪妻』じゃない。ステレオタイプの「良い妻像」から脱却し自分らしく生きる方法を一緒に見つけてみませんか?

『悪妻謙母のすゝめ』  
阿久津五代子著 フローラル出版



Twitterで話題のシスターフードとGL(ガールズラブ)のマンガ。料理を作ることが好きな女性と食べることが好きな女性が食事を通して仲を深めていく話。

『作りたい女と食べたい女』(コミック1～5)  
ゆざさかおみ著 KADOKAWA

どうぞお気軽に図書コーナーへお立ち寄りください。

ウィルの図書・DVDは、枚方市在住・在勤・在学の方ならどなたでも無料で借りることができます。ウィル図書カードがあれば一度に3冊まで(DVDは2点まで)2週間貸出しています。

### ウィル図書カードを作るには

- ◆住所が確認できる免許証、保険証等のご提示をお願いします。
- ◆「男女共生フロア・ウィル図書カード登録票」にご記入いただくだけで図書カードを即日発行します。その日から図書やDVDの貸出しができます。

枚方市人権政策課  
2025年度実施講座

実施日	講座
6月3日(火)	<b>男女共同参画週間事業</b> 落語とジェンダー～私らしく生活たらええやん
	<b>女性のための基礎から学ぶ起業セミナー</b>
①6月4日(水)	①起業の心構えと実例
②6月5日(木)	②起業に必要なお金の話
	<b>ウィル de クラフト</b>
①8月7日(木:午前)	①親子向け
②8月7日(木:午後)	②一般向け
8月22日(金)	<b>親子で学ぼう!こころとからだを守る性教育</b> ～同意の大切さと SNSトラブル予防～
9月24日(水)	<b>女性のための心理学レッスン</b>
10月4日(土)	<b>サイエンスイベント「光る!はねる!</b> 生き物みたいな物体を作ろう!!
	<b>ウィル de シネマ</b>
①10月16日(木)	①「ビリーブ 未来への大逆転」
②10月17日(金)	②「ミツバチと私」
11月15日(土)	<b>ワーク・ライフ・バランスセミナー</b> ～あなたの人生時間がもっと上手に 使えるようになる講座～
11月18日(火)	<b>これってDV?どこからDV?</b> ～加害者プログラムの取組を含めて～
11月22日(土)	<b>学んで、語って、パパのためのこころ育て講座</b>
1月24日(土)	～自分らしく生きていい!知ると気持ちが楽になる～ <b>母娘関係講座</b>
1月31日(土)	<b>ウィル・ミニフェスタ「こころと体のフィットネス」</b>
2月12日(木)	<b>「再就職・転職応援講座」</b> 共催:まるっとこどもセンター
2月20日(金)	<b>男女(みんな)で考えよう防災の話</b>
3月7日(土)	<b>ひらかたジェンダーしゃべり場</b>
3月12日(木)	<b>女性たちはどう生きたか</b> ～「源氏物語」「枕草子」「更級日記」から考える～

定期交流会等

ひらかた・にじいろスペース (LGBTQ + コミュニティスペース)  
実施日: 毎月第3火曜日開催

《面接相談・法律相談の予約、お問い合わせ》

**枚方市男女共生フロア・ウィル** (ステーションヒル枚方6階)

TEL 072-843-5636 FAX 072-843-5637

- 平日/午前9時～午後5時30分 ※ただし、第1木曜日・第3火曜日は午後8時まで
- 第1土曜日/午後1時～午後5時30分
- 休所日/第1土曜日午後を除く土・日・祝日・年末年始



《編集後記》

おかげさまで男女共生フロア・ウィルは、サンプラザ3号館から令和6年9月にステーションヒル枚方6階へ移転し1年が過ぎました。この間、多くの方々にご利用いただきありがとうございます。今年度は数年ぶりに「ウィル・ミニフェスタ」を開催し、登録団体の活動の展示・体験を行い多くの方にご来場いただきました。

今後もフロアを使った様々な講座を数多く開催するなど性別にかかわらずいきいきと暮らせる社会づくりを目指す枚方市の男女共同参画の拠点施設として、ますますウィルを身近に感じていただけるよう取り組んでまいります。皆様どうぞよろしくお願いいたします。

表紙・本文イラスト/タツミカオ(絵本作家)

2026年度 女性のための相談案内  
(祝日及び年末年始を除く)

面接相談

女性が抱える様々な悩みを受け止め、自分自身の力で次へ進めるように女性相談員がサポートします。

●要予約 1回50分 要予約 (072-843-5636)

相談日

毎週水曜日 午後1時～4時10分  
毎週金曜日 午前10時～午後1時50分  
第1木曜日・第3火曜日 午後4時～7時30分  
第2・4・5木曜日 午後1時40分～4時50分

電話相談 専用電話 072-843-7860

女性が抱える様々な悩みについて電話で相談できます。女性相談員が対応します。

●予約不要 相談受付は終了時間の20分前まで

相談日

毎週水曜日 午後1時～5時  
毎週木曜日 午前10時～午後3時  
第3火曜日 午後3時～8時

法律相談

離婚問題、家族間のトラブル、相続など女性が抱える法律上の問題について女性弁護士が相談に応じます。

●要予約 30分 (072-843-5636) ※1年度につき1回限り

相談日

第1木曜日 午後5時20分～午後7時50分  
第1土曜日・第2金曜日 午後1時20分～午後3時50分  
第4火曜日 午前10時20分～午後0時50分

その他の相談案内(祝日及び年末年始を除く)

LGBTQ + 電話相談 072-843-5730

性的マイノリティの当事者や家族などが抱える様々な悩みについて電話で相談できます。専門の相談員が対応します。

●予約不要 相談受付は終了時間の20分前まで

相談日

第1木曜日 午後3時～8時

LGBTQ+チャット相談

性的マイノリティの当事者や家族などが抱える様々な悩みについてチャットで相談できます。専門の相談員が対応します。詳しくはコチラ▶

相談日

第1・3木曜日 午後4時～7時



男性のための電話相談 072-843-5730

男性が抱える様々な悩みについて電話で相談できます。男性相談員が対応します。

●予約不要 相談受付は終了時間の20分前まで

相談日

第3火曜日 午後6時～8時